

地域に感謝の気持ちを込めて

富士重工業グループの社会貢献は、輸送機器メーカーとして果たすべきことを中心に取り組み、地域の皆さまに喜んでいただける存在となることを目指しています。また、社会貢献を企業風土として根づかせ、真に心のこもった活動を行いたいという考えを社会貢献方針に織り込んでいます。

社会貢献方針

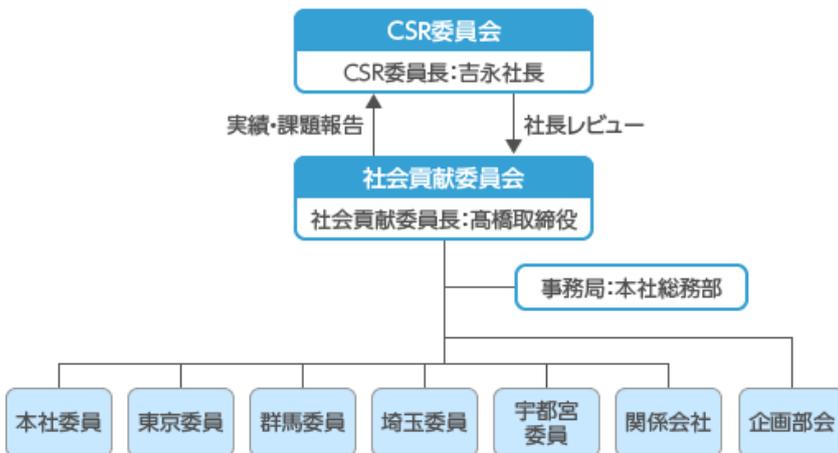
- 私たちは、科学技術やのりもの文化の発展、交通安全の普及に貢献します。
- 私たちは、ものづくりの楽しさ、大切さや尊さを知る、人づくりに貢献します。
- 私たちは、私たちが活動する地域の発展に貢献します。
- 私たちは、一人ひとりもよき市民として、社会に貢献することを互いに応援します。

社会貢献活動の推進体制

富士重工業グループでは、自社の技術やノウハウなどを活用した社会貢献活動を積極的に進め、継続させていくための組織として社会貢献委員会を設けています。

社会貢献委員会は、委員長を当社の総務部担当役員が務め、そのほか各事業所長で構成されています。委員会は半年に1回定例開催し、活動の実績や課題をとりまとめてCSR委員会に報告。CSR委員会の委員長である社長から評価を受け、さらなる改善を図っています。

社会貢献委員会 組織図



社会貢献委員会

乗り物文化の発展・交通安全の普及

スバルの交通安全教室開催

2015年10月、本社ショールーム「スタースクエア」で「スバルの交通安全教室」を開催しました。このイベントは、小学校低学年の児童を対象に、交通安全への意識を深めてもらうことを目的としたものです。当日は、安全のためのポイントを楽しく学べるよう、映像紙芝居と4つの体験型プログラムを行いました。



交通安全教室の様子

交通安全運動

各事業所では、警察や安全運転管理者協会などの協力のもと、事業所周辺の通学路の街頭交通指導や夜間における交通事故防止用の反射材を電柱に貼付する活動などを行い、交通安全・事故防止のための活動を推進しています。



左：宇都宮市内の夜間における交通事故防止用の反射材を電柱に貼付する活動

右：埼玉製作所の通学路での交通安全指導

交通安全啓発活動

当社は、子ども向けサイト「スバルキッズ」の運用を開始し、子どもたちの交通安全意識の向上に取り組んでいます。

また各事業所では、従業員に対しても長期連休前をはじめ、折に触れて交通事故防止の啓発を行うなど、交通社会の一員としての意識づけを積極的に行っています。



子ども向けサイト「スバルキッズ」

<http://www.fhi.co.jp/kids/>

公益財団法人 交通遺児育英会、公益財団法人交通遺児等育成基金への寄付

本社ショールーム「スタースクエア」で行われたスバルモータースポーツオークション、群馬製作所で行われたスバル感謝祭、東京事業所で行われたチャリティバザーの収益金を、2015年9月に公益財団法人 交通遺児育英会、2016年3月に公益財団法人交通遺児等育成基金に寄付しました。寄付金は、交通遺児の健全な育成・就学支援などのために活用されています。



チャリティバザーの様子

スバルビジターセンター

スバルビジターセンターは2003年7月15日にオープンし、工場見学などで矢島工場に訪れるお客さまにスバルの歴代のクルマや世界記録を樹立したクルマ、スバルの個性的な技術や環境への取り組みなどを展示し、紹介している施設です。2015年度は91,249名のお客さまにご来場いただきました。

見学の申し込み（10名～200名）
スバルビジターセンターの詳細については、
こちらをご覧ください

<http://www.subaru.co.jp/about/showroom/vc/>



スバルビジターセンター



モノづくり・人づくり

出前環境授業

宇都宮製作所では、環境への理解を深めてもらうことを目的に、出前環境教室を開催しています。この活動は、宇都宮市内の小学校5年生を対象に、当社の従業員が講師として出向き、実験や授業を通して地球温暖化の仕組みや、環境についての理解を深めてもらうことを目的としています。2015年度は15校（1,152名）で実施しました。

また、2013年度からは半田工場がある愛知県半田市の小・中学校にも活動の場を広げ環境教室や「飛行機が飛ぶ仕組み」の講話、当社の航空機製造の歴史、製品の紹介・航空機材料体験等を2015年度は10校（565名）で実施しました。

活動を始めた2006年から宇都宮・半田地区累計172校（12,003名）となっており、地域に定着した活動となっています。



宇都宮市内の小学校での環境授業

職場体験への協力

埼玉製作所では、北本市が社会教育の一環として行っている「キャリア・チャレンジ（職場体験）」に協力し、市内全中学校から生徒を受け入れています。生徒の皆さんには、エンジンの組付や部品製作などを3日間体験していただいています。2015年度は11名の生徒を受け入れました。



職場体験の様子

2016年2月、横浜市立田奈中学校の生徒315名に対し、当社の従業員が道德の授業を行いました。

「国際理解教室」と題したこの授業は、スバルラリーチームジャパンとしてラリーを経験した従業員から、アフリカでの生活体験などを生徒に伝えることで、「日本での日常生活のあり方を考えるきっかけ」にしたいという同校の要望を受けて実施したものです。アフリカと日本と文化や生活環境の違いのほか、「チームリーダーとは」「コミュニケーションの大切さ」などを話し、生徒たちは興味深く耳を傾けていました。



地域貢献

「スバル地域交流会」活動

群馬製作所ではお取引先とともに「スバル地域交流会」を組織しています。「スバル地域交流会」は、太田市と周辺地域住民との相互交流ならびに地域発展を図り、住み良い街づくりに貢献することを目的としています。

「スバル地域交流会」2015年度の主な活動

- 「花いっぱい運動」（6月、9月、12月）
スバル地域交流会会員企業が花の苗を購入し、花の植え付けをする活動。9月には太田市内の小学校へも花の苗を配布し、小学校対抗花壇コンクールを開催。優秀花壇を1月に表彰。
- チャリティふれあいコンサート
6月にJAZZコンサート（新田エアリス）、
12月にクリスマスコンサート（大泉文化むら）を開催
- チャリティ&親睦ゴルフ大会
7月上武ゴルフ場にて会員企業有志で開催

チャリティコンサート

スバル地域交流会で実施している「ふれあいコンサート」では、不要なタオル、石鹸、日用品などをお客さまにご持参いただき、それらを福祉協議会へ寄付する活動を行っています。



ふれあいコンサート

詳細は「スバル地域交流会ホームページ」をご覧ください。

なお、国内関連企業部会参画の（株）イチタン、桐生工業（株）、（株）スバルロジスティックスの3社は本交流会の会員となっています。

<http://www.chiiki-kouryuukai.com/>

地域清掃活動

当社は、定期的に従業員による各事業所周辺の美化・清掃活動を行っています。2015年度は、各事業所合計でのべ約4,800名が参加しました。

今後も地域の美化活動への取り組みを継続していきます。



左：宇都宮製作所「クリーンキャンペーン」

右：埼玉製作所「ぴかぴか北本お任せプログラム」

献血活動

当社は、各事業所で定期的に献血活動を実施しています。2015年度は、各事業所合計で1,251名が参加しました。

献血を通して一人でも多くの方のお役に立てるよう、これからも献血活動に協力していきます。



宇都宮製作所での献血の様子

自衛消防訓練審査会への参加

東京事業所の敷地内で、2015年度自衛消防訓練審査会が開催されました。自衛消防訓練審査会とは、一定規模以上の事業所において、防火・防災などの目的で組織される「自衛消防隊」が、日頃の訓練や活動の成果を披露する大会です。

東京事業所ではこの審査会に毎年参加することで、訓練経験者を養成し、万が一の災害発生時の迅速な対応を目指しています。



自衛消防訓練審査会の様子

環境維持活動支援

TOPICS

富士スバルライン周辺の環境維持活動に協力

2015年9月に「公益財団法人 富士山をきれいにする会」（山梨県甲府市）が主催し、富士山の清掃と美化啓発に取り組む「富士山クリーン作戦」が行われました。当社の従業員も活動に参加するとともに、昨年から引き続き活動資金50万円を寄付しました。また、燃やしても有害物質が出ないオリジナルゴミ袋を富士北麓地域の自治体などへ配布しました。

この活動は、今後も当社の社会貢献活動の柱の1つとして取り組んでいきます。



清掃活動の様子



配布したオリジナルゴミ袋

ボランティア活動支援

当社は社会貢献方針に、従業員一人ひとりが市民として行う社会貢献活動を応援することを明記しています。これは、従業員が積極的に社会貢献の意識を持つことにより、社会に貢献する風土を全社に根付かせることを目的としています。

これを具現化する取り組みとして、積極的なボランティア活動を通じて地域や社会に貢献している従業員を表彰しています。この表彰制度は2006年に創設し、2016年6月の第11回表彰式では2名の従業員を表彰しました。



表彰を受けた従業員2名（左から3・4番目）と当社役員



社会貢献:各事業所での取り組み

乗り物文化の発展・交通安全の普及

交通安全運動

交通安全指導（宇都宮製作所）

従業員の交通マナー向上活動の一環として、通勤時間帯に製作所周辺の道路で交通安全指導を実施しました。製作所周辺は通学路が多いため、新入生が通い始める4月と、夏休み明けで緊張が緩む9月の2回実施しました。



二輪車安全運転教室（東京事業所）

2015年も、三鷹警察署ご協力のもと、二輪車安全運転教室を開催しました。社外からの参加も含め40人の受講者は白バイ隊員や指導員の指導を受け、運転技術の向上に熱心に取り組みました。



交通安全への取り組み（埼玉製作所）

「輸送機器メーカーとしての責任を強く認識して世の中の交通事故削減のために努力し、交通違反と交通事故（加害）のゼロ化に努める」という考え方のもと、従業員への交通安全意識の高揚に取り組み、交通事故抑止に努めています。

また地域においては、産機カンパニーで取り組んでいる交通安全活動の発表なども行っています。これらの活動などが認められ、2014年1月には埼玉県安全運転管理者協会から表彰されました。さらに2015年度からは、「産機タウンウォッチャー」として、交通事故の未然防止、安全運転意識の啓発、地域における安全・安心を築くため北本工場、桶川工場に接した公道の交差点などの危険箇所にて、毎月2回、交通安全啓発活動および挨拶運動を実施しています。



モノづくり・人づくり

群馬県からくり工夫展

「第8回群馬県からくり工夫展」が群馬県庁で開催されました。産業機器カンパニーで制作された「からくり改善装置」を展示、実演し、子供から大人まで多くのお客様に楽しんでいただきました。



地域学習 地域町探検に協力

群馬製作所近隣の太田市蕪川西小学校3年生児童12名の地域学習に協力しました。プレス工場を見学し、プレス機を間近に生産工程を見学、工場のすごさを体感していただきました。



まちの先生見本市

おおたまちの先生見本市実行推進協議会主催の「第6回まちの先生見本市」が敷塚本町小学校で開催されました。当社ブースではスバルマークを形取ったプレートを紙やすりでバリ取りを行いながら仕上げ作業を体感していただきました。会場は子どもたちの熱気で溢れ、子どものみならず、保護者の方も作業に熱中していました。



地域貢献

イベント開催・参加

おおた芝桜まつり（スバル地域交流会）

太田市主催おおた芝桜まつりにスバル地域交流会がPR活動を行いました。くじ引きやビンゴなど、家族で楽しめるイベントや車両の展示を行い、集まったお金は社会福祉協議会を通して、市内の福祉施設へ寄付しました。



太田市スポレク祭（スバル地域交流会）

地域交流会による子供向けゲーム、車両の展示などのテント活動を実施。スバルマラソンへも協賛しました。



スバル感謝祭（群馬製作所）

群馬製作所矢島工場にて「2015スバル感謝祭」が開催されました。社員のご家族、地域の皆様、関係会社など約28,000の方にご来場いただきました。各職場模擬店、工場見学やアイサイト体験など各種イベントを実施しました。



ふれあい祭り（宇都宮製作所）

宇都宮地区では、2015年10月に南工場を開放して「ふれあい祭り」を開催。約4,000人に参加いただき、地域住民の皆様との交流を深めることができました。この中で、宇都宮製作所のCSR・環境活動をPRするとともに、とちぎ環境みどり推進機構のご協力のもと、ブルーベリーの苗木を配付し、緑の和を広げる活動を推進しました。また、2013年からは、半田地区でも「半田ふれあい祭り」を実施しています。半田工場で製造しているボーイング777、787の中央翼におけるモノづくりを通して、航空宇宙カンパニーを理解していただくことを目的に実施しています。従業員ご家族、半田行政各機関・近隣法人、近隣住民の方々など約1,800人が参加しました。



納涼盆踊り大会（宇都宮製作所）

納涼盆踊り大会が、地域自治会・婦人会・子供会、協力企業の皆様など約1,500人の参加を得て、盛大に行われました。盆踊りは、1984年から実施し今年で29回目を迎え、地域貢献の大きな行事となっています。



事業所納涼祭（東京事業所）

隣接する国際基督教大学サンバサークルによるパレードを皮切りに、恒例の大抽選会やお子様へのプレゼントなどお楽しみ企画を実施し、お子様連れのお客様に好評を得るなど、今年も大勢の地域の皆様と交流を図ることができました。



工場見学会

スバル地域交流会主催工場見学会（スバル地域交流会）

スバルビジターセンターにおいて、地域の皆様を対象に「交通安全講話と工場見学会」を開催しました。215名の方が出席され、太田警察署による交通安全講話の後、矢島工場およびビジターセンターを案内しました。



子どもたちと地域をつなぐ工場見学会（埼玉製作所）

この活動は、北本市長および教育委員会から「北本市内の小学3年生は、埼玉製作所を題材に人々の仕事と私たちの暮らしについて授業を行っているので、それに添った工場見学会などをできないか」という相談を受けて2014年度からスタートしたものです。2015年度は、市内4校274名の生徒を受け入れました。事前に教科書でエンジンができるまでの工程を学んでいる生徒たちからは、多くの質問が寄せられ、実際に作業してみたいなどの声を聞くことができました。



地域清掃活動

スバル地域交流会主催による「第21回 金山清掃ボランティア活動」を開催。初夏を思わせる暑さの中、金山親水公園周辺の草刈り、周辺清掃を太田市ならびに市内中学生ボランティアの皆様、スバル地域交流会会員のご協力により実施しました。当日は約850名の方々に参加いただきました。



献血活動

毎年2回、春と秋に埼玉製作所内で献血を実施し、北本市が推進している献血事業に協力しています。2013年7月には、日本赤十字社から「活動継続15年以上の企業」に選ばれ、北本市では唯一、「銀色有功章」の表彰を受けました。今後も社会に貢献できるよう努めていきます。



テロ・災害対策

三鷹警察署主催「三鷹パートナーシップ研修会」を東京事業所内で開催しました。当社と三鷹警察署との連携を強化し、テロや自然災害に対する意識向上を図りテロ対策や災害対策を推進することが目的です。社外も含め65名が参加し、危機意識を共有することができました。



スポンサー・協賛活動

第13回スバル旗争奪群馬県学童軟式野球大会（群馬製作所）

群馬県下の各地域の少年野球チームが参加しスバル旗争奪・群馬県学童少年野球大会を開催しました。子どもたちの熱い戦いが繰り広げられ、会場は大いに盛り上がりました。



ザスパクサツ群馬オールスバルスペシャルマッチ（群馬製作所）

「富士重工業（株）群馬製作所 PRESENTS 群馬県オールスバルスペシャルマッチ」と題して、サッカーJ2ザスパクサツ群馬開幕戦に協賛、来場者全員に青の特製コラボTシャツが配られました。当日は天候にも恵まれ、会場の正田醤油スタジアムは青一色に埋め尽くされました。



JAPAN CUPサイクルロードレース（宇都宮製作所）

宇都宮市が主催するアジア最高峰の自転車レース「JAPAN CUP」に、冠スポンサーとして1990年より継続して協賛しています。2日間の大会で約12万5千人の観客が県内外から集まるイベントで、チームサポートカーとしてレガシィ他を提供しています。



環境維持活動支援

緑の募金

11月、栃木県と愛知県の緑化推進委員会に、宇都宮製作所内で働く全員で集めた募金を寄付しました（募金累計：561万円）。2000年に始まったこの活動は16年目を迎え、2007年度には農林庁長官賞、2011年度には2回目の緑化推進委員会理事長賞を受賞しました。



スポーツ活動

都市対抗野球大会

2015年7月に「第86回都市対抗野球大会」が開催され、開会式では野球教室など長年の地域貢献活動が評価され「みんなの元気総務大臣賞」を受賞しました。

1回戦、日本通運との試合は12,500人の大応援団が声援を送るなか、6対4で見事勝利。続く2回戦、大阪ガスとの試合は0対2で惜敗しました。



ニューイヤー駅伝

2016年元旦、ニューイヤー駅伝が開催されました。群馬県を舞台に全国37チームが熱戦を繰り広げ当社陸上競技部は総合25位でゴールしました。当日は、沿道に集まった多くの方々からスバルの手旗を振り、温かい声援をいただきました。



Subaru of America, Inc.での取り組み

生活の苦しい人々の食事を支援

SOA（米国・ニュージャージー州）は、救世軍クロック・センター（ニュージャージー州カムデン）との協力のもと、スバル・チョイス食糧備蓄倉庫（Subaru Choice Food Pantry）を設立しました。これは、生活の苦しい人々に対して緊急的に食事と支援サービスを提供することを目的とした施設です。

2015年、スバル・チョイス食糧備蓄倉庫は1,311世帯に対して4万2,462食分の食事を提供し、その総量は6万500ポンド（およそ27.4トン）以上に達しました。支援対象には1,900名以上の子どもたちも含まれています。



（右から）：トム・ドール（Tom Doll）（SOA長兼COO）、テリー・ウッド少佐（Major Terry Wood）（救世軍クロック・センター会長）、サンディ・カペル（Sandy Capell）（SOA慈善事業・企業責任部長）。



備蓄食糧補充の手伝いをする従業員

子どもたちに本や教材を寄贈

2015年8月、SOA本社・各事業所の従業員および販売会社が協力し、全米各地の学校200校以上に1万6,000冊以上の本や教材を寄贈しました。



2,000個以上のバックパックに本や教材を詰める作業を行った従業員たち

国立公園の埋め立てゴミ削減に向けた共同事業を開始

SOAはアメリカ合衆国国立公園局とともに、国立公園から出る埋め立てゴミを削減するための共同事業を開始しました。今後5年間をめぐりに、埋め立てゴミの量をゼロにすることを目標として、取引先企業や国立公園と協力し取り組みを進めています。

国立公園内でホテルやレストラン、ショップを運営している大手事業者もこの活動に参加し、事業活動の中で発生する廃棄物のリデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）

——3R活動を展開。現在は、カリフォルニア州のヨセミテ国立公園、ワイオミング州のグランド・ティトン国立公園、アラスカ州のデナリ国立公園の3カ所です。

また、SIA（米国・インディアナ州）が確立した基本方針を用いて、またSIAで実践している手順を取り入れることにより、これからの100年間、持続可能な国立公園の実現を目指します。



Subaru Research & Development, Inc.での取り組み

さまざまな活動に対して寄付活動を実施

2015年は下記の団体に寄付金を贈呈しました。

- あさひ学園（ロサンゼルス日本人学校）：500ドル
- デトロイトりんご会補習授業校：300ドル
- デトロイト日本商工会／デトロイト美術館での日本美術展：250ドル
- インディアナ日本語学校：1,500ドル



Subaru of Indiana Automotive, Inc.での取り組み

地域イベントに会社の敷地を提供

地域のNPOによる以下のイベント開催のためにSIA（インディアナ州ラファイエット市）の敷地を提供しました。

- アルツハイマー協会主催「5Kウォーク（5K Walk）」（参加者600名）
- アメリカがん協会主催「乳がん撲滅キャンペーン（Making Strides Against Breast Cancer）」（参加者500名）
- 「CASAサイクリング・チャレンジ（CASA Cycling Challenge）」（参加者400名）

メモリアル・アイランドの再整備計画を推進

SIAは、コロビアン・パーク内（インディアナ州ラファイエット市）にあるメモリアル・アイランドの再整備プロジェクトにおいて主導的な役割を果たしました。メモリアル・アイランドは、地元出身の退役軍人たちを称えるために建設された場所です。建設から長年経過したことから、大規模な改修・再整備が必要になっていました。SIAは自ら資金協力を行ったほか、地域の他企業や個人にも協力を呼びかけ、プロジェクトの実現に必要な資金の確保に尽力しました。



Subaru Canada, Inc.での取り組み

アイアンマンレースのカンプリスポンサーとして協賛

SCIIは、カナダで開催されている6つのアイアンマンレースの冠スポンサーを務めており、参加選手たちの挑戦を支援しています。アイアンマンレースは水泳3.8キロ、自転車180キロ、ラン42キロから成るレースで、トライアスロン競技の中でも最も過酷なものです。



カナダ最大規模のファン向け展示会

2015年8月、12回目となる「ハイパー・ミーティング (Hyper Meeting)」を開催しました。企業の本社で開催されるファン向け展示会としてはカナダ国内で最大規模を誇り、毎年1回開催しています。毎年、募金活動も行われており、集められた寄付金は、「ドナルド・マクドナルド・ハウス (トロント)」(※)に贈呈しています。2015年は1,000名以上の参加者がこれに賛同し、約2万ドルの寄付金が集まりました。これに同じ金額をSCIがマッチングして、合計4万ドルを贈呈しました。

※ドナルド・マクドナルド・ハウス：重病の治療のために自宅から離れた病院に入院を余儀なくされた子どもとその家族が、ともにくつろいだ時間を過ごすことができる「第二のわが家」の提供を行っている慈善団体。



スバル・ディーラー連盟によるチャリティ・ゴルフ・トーナメント

2015年7月、オンタリオ州スバル・ディーラー連盟によるチャリティ・ゴルフ・トーナメントの第3回大会が行われました。大会には、スバル販売店のスタッフや取引先、SCIから総勢90名が参加しました。「ドナルド・マクドナルド・ハウス (トロント)」への寄付金として、3万6,000ドルの募金が集まりました。また、8月にはケベック州スバル・ディーラー連盟による第6回大会が開催されました。スバル販売店のスタッフや取引先、SCIから総勢120名の参加者があり、ケベック州の子ども・若者の心の健康の問題に取り組んでいる「La Fondation les petits trésors (小さな宝物財団)」に対する支援金として、6万6,000ドルの寄付金が集まりました。



Subaru of China, Ltd.での取り組み

「31の森 星の旅」第三シーズン

SOC (中国・北京市) は2012年末に、中国国家林業局傘下の中国野生動物保護協会と共同で「スバル森林生態保全プロジェクト」を充足し、毎年100万元を寄付してきました。また、このプロジェクトをベースに、2013年に「31の森 星の旅」という活動を展開し、中国内の31カ所の自然保護区に「スバル生態保護林」を育てるとともに、各自然保護区に31台のフォレスターと森林保護関連物資を提供しています。

2015年の「31の森 星の旅」第三シーズンでは、中国三大機関紙である「光明日報」および公益プロジェクト「森林中国」と共同で、国家レベルでの自然環境・森林生態系の保護を推進。植樹をはじめ、自然保全区に生活している人々の健康診断や治療のサポート、絵画素材の収集・スケッチなど、インタラクティブなエコ体験を通じて、より多くの中国のお客様に自然環境保護活動に参加していただき、生態系保護の重要性を発信しました。

こうした取り組みに対して、「森林中国・第1回中国生態ヒーロー」の選出セレモニーイベントで「公益パートナー」賞をいただきました。今後も「31の森」活動を通じて、中国の自然環境保護に貢献していきます。

